日本丸がやってきた！

播磨町町制施行55周年記念にふさわしい事業として、「生涯、記憶に残るふるさと播磨町の風景を、皆さんと一緒に共有できるような事業をしたい」と願って帆船「日本丸」を招へいしました。

10月12日～16日まで播磨町新島公共ふ頭に停泊し、入港歓迎式典、セイルドリル、船内一般公開、出航式典、登しょう礼を予定していましたが、雨天のためセイルドリル、出航式典、登しょう礼を実施することができませんでした。（登しょう礼に代わって登舷礼を実施）

それでも連日、多くの人が公共ふ頭に足を運び、美しい船体に魅入り、写真を撮ったり実習生との交流を楽しんだりして、帆船「日本丸」の来航を歓迎しました。当日の様子を一部紹介します。

日本丸の実習生は、今回が初の航海です。10月1日に東京港を出航し初めての洋上訓練のあと、初めての寄港をこの播磨町で体験しました。

一般公開で多くの見学者を迎えた実習生に対し、「はきはきとした爽やかな印象で、気持ちがいい」「これからの訓練、頑張ってほしいです」といった感想をいくつも耳にしました。

阿部真二郎船長にお話しを伺いました

実習生のモチベーション

実習生の日誌にも「がんばれよ、と声を掛けてもらって本当にうれしかった」と、書いてありました。セイルドリルがなかったことは少し残念そうにしていたのですが、そのようなお声掛けをいただきまして実習生のモチベーションも上がったと思います。

登しょう礼と登舷礼について

敬礼にはいろいろありまして、「登しょう礼」というとマストに登るイメージが強いと思いますが、元は敬礼です。昔は船に大砲を持っていましたので、「大砲を打つ人間は、今デッキにはいませんよ」「敵意はありません」と伝える意味で、船員が手を挙げた状態で入港したのが始まりです。現代では（船にマストがないので）舷側に並んで敬礼する「登舷礼」というものもあります。ニュースなどで南極観測船が南極に向けて出航するときなどに見られます。

今のような雨の降り方ですと（訓練期間の浅い実習生には）マストに登ることは少し難しいです。ですので、天候が悪ければ「登舷礼」で感謝と敬意を伝えます。

DATA

10月12日（木）	9:45　東播磨港に入港。新島公共ふ頭に接岸 11:00　入港歓迎式典 式典出席者数　日本丸乗組員147人、播磨町（来賓、小学生、高校生、関係者）約400人
13日（金）	（日本丸乗組員休暇日）
14日（土）	セイルドリル（雨天中止） 来場者数約2,700人
15日（日）	船内一般公開（雨天決行） 来場者数約4,700人
同時公開	海上保安庁巡視艇「ぬのびき」
16日（月）	出航式典・登しょう礼雨天中止のため登舷礼を実施 14:00　出航　来場者数約700人

▶**問合せ**　企画グループ
☎０７９（４３５）０３５６

用語解説　**日本丸**　独立行政法人海技教育機構所属の練習帆船で、船舶職員になるために必要な実習を行うために学生が乗船しています。**セイルドリル**　マストの帆を張る訓練。通常、帆は畳んだ状態で航行、停泊しています。帆を張って航行することを帆走といいます。**登しょう礼**　出航時に船員がマストに登り、見送りの人に感謝と敬意の意を込めてあいさつをする帆船において最高の礼。**登舷礼**（とうげんれい）　出航時の感謝の意を込めた敬礼の一つ。マストに登らない場合（またはマストがない船の場合）、船員が舷側（船の側面、ふなべり）に立って行う。